

CAESAR NEWSLETTER

第15号 2017年1月

土木研究所構造物メンテナンス研究センター
〒305-8516 つくば市南原1-6
電話029-879-6773
e-mail: caesar @ pwri. go. jp
http://www. pwri. go. jp/caesar/index-j. html

年頭のご挨拶

構造物メンテナンス研究センター長 野口 宏一



明けましておめでとうございます。年頭にあたりご挨拶申し上げます。

土木研究所構造物メンテナンス研究センター（CAESAR）は本年、平成20年4月の設立から9周年を迎え、10年目の活動に入ります。

土木研究所は、昨年、平成23年度からの第3期中長期計画を終え、新たに6か年の第4期中長期計画を策定し、研究開発の新たなステップに入りました。

第3期中長期計画においては、産学官との連携・共同研究による効率的・効果的な研究を精力的に進めた結果、CAESARにおいても多くの成果を得ることができました。これらの研究成果はCAESAR講演会をはじめ各種研究集会等で報告するとともに、道路橋示方書等関連技術基準の策定・改定にあたっての基礎資料となっています。

新たに策定した第4期中長期計画においては、土木研究所全体として社会的要請の高い課題である「安全・安心な社会の実現」「社会資本の戦略的な維持管理・更新」「持続可能で活力ある社会の実現」に貢献するための研究開発に重点的・集中的に取り組めます。CAESARではこのうち「安全・安心な社会の実現」「社会資本の戦略的な維持管理・更新」を中心に、土木技術による生産性向上・省力化にも資することに配慮しながら研究開発に取り組み、多くの成果が得られるよう努めて参ります。

昨年は災害の多い一年でありました。4月の熊本地震に始まり、8月下旬の台風による豪雨などの災害に土木研究所は研究員を派遣しました。CAESARにおいても熊本地震に関連して延べ66人日の研究員を土研 TEC-FORCE などとして被災地に派遣し、被災状況の把握分析や復旧に係る助言を行いました。

また橋梁架設時やトンネル掘削時など工事中の事故が多い一年でもありました。土木研究所は11月に福岡市で発生した地下鉄工事現場における道路陥没に関して、従来のように委員としての参加にとどまらず、検討委員会の事

務局を担当しています。これは土木研究所の今までの研究開発や技術指導などの実績が認められた結果です。CAESARは今回の検討委員会には直接的には関与していませんが、CAESARとしても技術力・調整力を生かせる、社会貢献すべき新たな活動領域と考えています。

さらにCAESARでは、国土技術政策総合研究所と連携して現地で生じた不具合に対する技術指導や設計に関する技術指導等を行い、これらの指導内容をナレッジとして蓄積するとともに各地方整備局の橋梁担当者を集めた橋梁担当者会議等を通じて現場にも情報提供や留意点等の助言を行って参りました。本年もこれらの活動を引き続き行い、全国の橋梁の長寿命化に貢献して参る所存です。

産学官協力の分野では、戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）も3年目に入り、CAESARが関与する「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」の「モニタリング技術を社会インフラの維持管理業務へ適用するための技術的検証」及び「異分野融合によるイノベティブメンテナンス技術の開発」では現場での計測を開始する段階に至りました。また「レジリエントな防災・減災機能の強化」の「大規模実証実験等に基づく液状化対策技術の研究開発」では大型実証実験を行うための予備的な実験が順調に進んでいます。残る2か年の研究期間で大きな成果へと結び付けられるよう努力して参ります。

CAESARは平成20年4月の設立から9周年を迎え10年目の活動に入ります。この間、以上述べて参りましたように、CAESARの役割は益々重要となっており、「現場支援」「研究開発」「情報交流の場」のミッションを着実に果たすようCAESARの職員一同たゆまざる努力を続けて参ります。本年も皆様のご理解とご協力をお願いいたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。